

水田作

<タイトル>

多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した水稻新品種「みなちから」を育成
－ 関東以西の地域での飼料用米の安定生産に期待！ －

<当該研究成果のポイント>

飼料用米は、水田を有効活用できる転作作物として注目されている。飼料用米の生産においては、コストや労力をかけずに、高い収量が安定して得られることが求められる。これまでに温暖地や暖地での栽培に適した多収の品種には、収量が10アールあたり700kgを超えるものも育成されているが、倒伏や病害虫により収量性が十分に発揮できない事例が多くあった。このため、関東以西の温暖地や暖地で栽培が可能で、多収で倒れにくく、病害虫に強い新品種「みなちから」を育成した。

「みなちから」は、温暖地や暖地で頻発するセジロウンカや縞葉枯病に抵抗性をもち、いもち病に強いという特徴があり、安定した生産が期待できる。また、稈長が短く茎も丈夫なため、倒れにくく、多肥栽培や直播栽培にも適する。既存の多収品種「ホシアオバ」よりも約5%、出穂期が同等の主食用米品種「きぬむすめ」より約18%ほど多収で、多肥移植栽培では10アールあたり800kgに近い収量性があり、多収が期待できる。

<期待される効果・今後の展開など>

「みなちから」は、登熟期間が長く、成熟期が「ホシアオバ」よりやや遅いことから、生育期間が長く確保できる温暖地や暖地での栽培に適しており、すでに瀬戸内沿岸部や九州地域などで200ha以上の栽培が始まっている。普及が拡大することで、関東以西の地域における飼料用米の安定した生産が期待される。

<研究機関名>

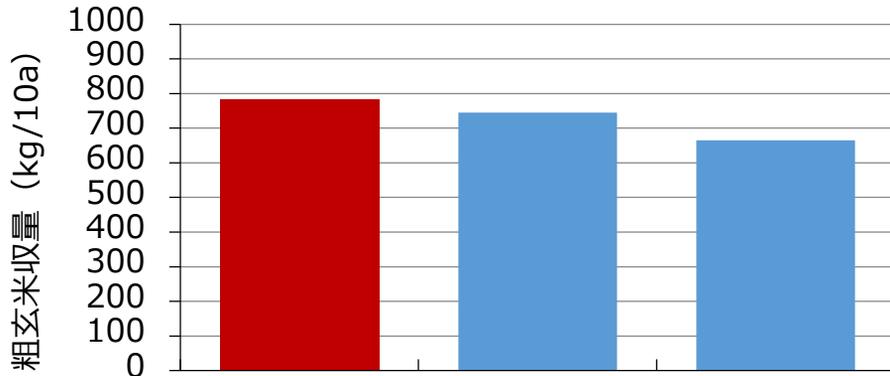
農研機構 西日本農業研究センター

<担当者名>農研機構 西日本農業研究センター 水田作研究領域
水稻育種グループ 主任研究員 中込 弘二 TEL : 084-923-5346**<連絡先>**農研機構 西日本農業研究センター 企画部産学連携室
広報チーム長 菅本 清春 TEL : 084-923-5385

多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した 水稲新品種「みなちから」を育成

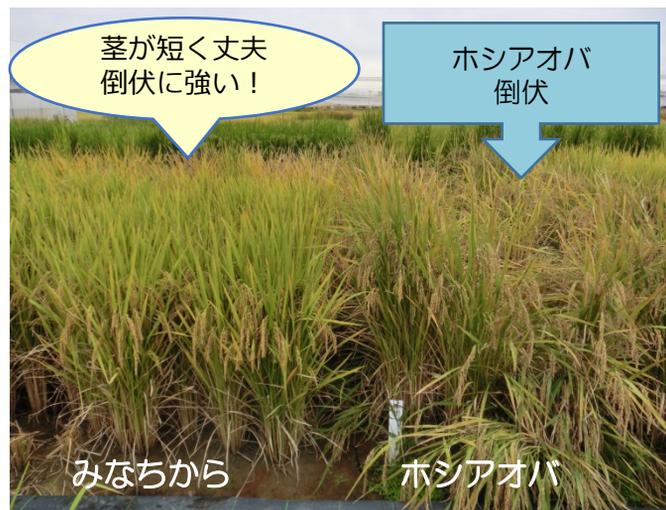
－ 関東以西の地域での飼料用米の安定生産に期待！ －

- ・ 多肥栽培により10アールあたり800kgに近い収量性。
- ・ 短稈、強稈で倒れにくいため、直播栽培にも対応。
- ・ セジロウンカ、縞葉枯病、いもち病に強いため、安定した生産が可能。



みなちから ホシアオバ きぬむすめ
「みなちから」の多肥移植栽培における収量

(注) 数値は西日本農業研究センターにおける2014～2017年 4カ年の平均。
6月上旬移植。平均窒素施肥量：1.5kg/a。



「みなちから」の直播栽培での草姿

【導入により期待される効果】

倒れにくいため多肥栽培・直播栽培に適し、縞葉枯病やセジロウンカの発生が多い関東以西の地域で、飼料用米の安定した多収生産が期待される。